

1. 実況上の着目点

- ① 日本海に低気圧があつて、東北東進。伊豆諸島付近～四国の南～東シナ海には前線がのびている。前線や低気圧に向かって下層暖湿気が流入し、南西諸島と東日本では1時間に10～20mmの降水を解析。北日本では3時間に5～10cmの降雪を観測。また、気圧の傾きが大きくなっており、全国的にやや強い風や強い風が吹き、波が高くしけとなっている所がある。
- ② 500hPa5100～5400mの-39℃以下の寒気を伴ったトラフが朝鮮半島付近にあつて、東進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項②のトラフは13日の日中に東～北日本を通過し、北日本には500hPa-39℃以下の寒気が流入する。1項①の低気圧は、このトラフに対応し、急速に発達しながら東北東進、1項①の前線と一体化し、13日朝には日本の東へ進む。上空寒気と前線や低気圧に向かって流入する下層暖湿気の影響で、大気の状態が非常に不安定となる所がある。西日本では13日は、東～北日本では14日にかけて、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 2項①の低気圧は、14日朝には千島の東へ進み、日本付近は14日にかけて西高東低の気圧配置となる。850hPaで東日本には-9℃以下、北日本には-12℃以下の寒気が流入し、日本海側を中心に降雪が強まり大雪となる所がある。東～北日本では14日にかけて、大雪や着雪、なだれに注意。
- ③ 2項①の低気圧や西高東低の気圧配置の影響で、気圧の傾きが大きくなり、雪を伴って強い風や局地的には非常に強い風が吹き、波が高くしけとなる所がある。北陸地方と東北地方では13日は暴風雪に、関東地方では13日は高波に警戒。全国的に14日にかけて、強風や風雪、高波に注意。
- ④ 15日は、西～北日本は日本の南に中心を持つ高気圧に覆われる。15日はじめは、高気圧と千島の東の低気圧との間で気圧の傾きが大きくなるため、東～北日本では15日は、強風や風雪、高波に注意。また、15日夜は華中～東シナ海に前線がのびる。前線に向かって850hPa θ e327K以上の下層暖湿気が流入し、南西諸島では、雷を伴った激しい雨が降り大雨となるおそれがある。今後の資料に留意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量子想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 降雪量(06時からの24時間)：北海道・東北40、北陸30、関東甲信25cm。
- ③ 波浪(明日まで)：東北・関東・伊豆諸島5、その他3～4m。
- ④ 高潮(明日まで)：大潮の時期。北日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。